



● 3組曲<白き花鳥図> 指揮 北村 協一  
ピアノ伴奏 沖本ひとみ

組曲 白き花鳥図

1. 黎明 印度書趣
2. 白鷺
3. 白牡丹
4. 鮎鷹
5. 柳鷺

白き花鳥図について=多田武彦

この「白き花鳥図」は、昭和4年北原白秋が45才の折刊行された詩集「海豹と雲」の中に収められている。小田原から再び上京して谷中天王寺墓畔の庇の深い家に住んだ頃に作ったもののうちの圧巻とよばれている近代幽玄体詩である。

私がすでに白秋の詩に曲を付して発表した組曲「柳河風俗詩」同「雪と花火」同「月夜孟」宗の図」と同じ頃に、私はこの「白き花鳥図」をも発表しようと思っていたが、無伴奏男声四部合唱では十分描き切れず今日に至った。この間私は関西学院グリークラブのために組曲「中勘助の詩から」同「雪明りの路」同「航海詩集」を書いて来たが、私がもう15年も前に魅了させられた関学グリーの演奏のもう一つの面であるピアノ伴奏付男声三部合唱の形式によって、2年前この組曲の作曲を思いついた。所が、ピアノの機能について私は不勉

強だったので、名作曲家のいくつかの作品の分折やテープにとった曲を何回もきいて、とにかく少しでもピアノの機能を生かした曲にしたいと努力してみた。その為、完成がおくれ、グリークラブの方々には大層迷惑をかけたしまったが、いい加減なものを作るこそ最もいけないことだと思っている私の態度に免じてご諒承頂きたい。

第1曲「黎明」は、夏、沛然と降りそそぐ雨の中の白鷺の群を、第2曲「白鷺」は睡蓮の咲く池のほとりの1羽の白鷺の姿を、対照的に描いた。第3曲「白牡丹」では晩春の籠に満つ白牡丹の幽玄な風情を表現し、第4曲「鮎鷹」では今もなお梨園の散在する多摩川畔の情趣を、そして終曲「柳鷺」では真冬の白一色の夕暮時に、夕日を浴びてたたずむ柳鷺の姿を、夫々表現した。

忌憚のないご批判を賜りたい。

多田武彦 紹介

昭和5年大阪に生れる。昭和28年京大法学部卒。現在富士銀行に勤務。

作曲を清水脩氏に師事。昭和35年男声合唱曲「雨の来る雨」にて合唱コンクール課題曲入選。昭和38年、混声合唱組曲「京都」にて芸術祭奨励賞受賞。作品には前記以外に組曲「柳河風俗詩」ほか20数組曲がある。